

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 11月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1070900459
法人名	社会福祉法人 みやび会
事業所名	グループホーム ふじの里
所在地	群馬県藤岡市中大塚607-4 (電話) 0274-22-7300
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2丁目29-5
訪問調査日	平成20年10月28日

【情報提供票より】(20年 9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	7人 常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	21,000円(水道光熱費)
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	76歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くすのき病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者・職員は、利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、利用者本位の支援に取り組んでいる。地元の高校の実習生とは活発に交流しており、花壇の手入れや野菜づくり、アニマルセラピー等共に行っている。週2回選択メニューを実施している。清潔に整えられた室内は、採光も十分に開放感があり、居室は広く設備が整っている。家族が通院の付き添いや寝具の交換等で訪れ、買い物や外食に出かける利用者もいる。利用者と職員が共に過ごし、ゆったりと生活しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスの役割を考えながら全職員で話し合い、事業所独自の理念をつくりあげた。介護計画の定期的の見直しは6ヶ月に1度から4ヶ月に1度に期間を短縮した。災害対策では、近隣の人達に防災協力員の依頼をしている。栄養摂取や水分確保の支援では、食べる量や水分摂取量が少なくなっているから個別に記録しており、改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は、評価の意義を理解しており、今回の自己評価については全員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に開催しており、事業所から各種報告を行い、出席者からの意見や要望を受け話し合いを行っている。会議のメンバーには評価結果を配布している。会議の中で、面会に来られない家族から日常の写真を送付してほしいという要望が出た。それを受け、毎月希望する家族に送付している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議に出席された時や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意しており、苦情や意見・要望を聞くように努めている。家族への通信に書面でも伝えている。週1回の選択メニューを継続してほしいとの家族の希望で現在も実施している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に地域の人達と挨拶を交わしている。年4回『ふじの里通信』を地域に回覧している。小・中学生の就業体験の受け入れをしている。地元の高校の実習生を受け入れ、花壇や畑の手入れ、オイルマッサージ、アニマルセラピー等利用者も一緒に体験し、活発に交流を図っている。地元のお話相手ボランティアが来訪している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で地域密着型サービスの意義を確認し、職員会議で話し合いながら、事業所独自の理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、職員会議等で理念を意識しながら話し合い、日々の生活の場において理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に地域の人達と挨拶を交わしている。年4回「ふじの里通信」を地域に回覧している。小・中学生の就業体験の受け入れをしている。地元の高校の実習生を受け入れ、花壇や畑の手入れ、オイルマッサージ、アニマルセラピー等で活発に交流を図っている。地元のお話相手ボランティアが来訪している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価については、全員の意見が取り入れられている。前回の外部評価についても話し合いを持ち、具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されている。ホームからは状況や事故の報告、自己評価の報告等を行い、出席者からの意見や要望を受け話し合っている。会議のメンバーには評価結果を配布している。会議の中で、面会に来られない家族から、日常の写真を送付してほしいという意見が出た。要望を受け、毎月希望する家族に送付している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分からないことなどがあれば、その都度市に出向いたり、電話で市のグループホーム担当者に相談している。介護相談員の受け入れをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、健康状態や暮らしぶり等を伝えている。月1回、ホームでの様子や行事等を書面で報告している。金銭管理の報告も定期的に行われている。年4回「ふじの里通信」を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意しており、苦情や意見等を聞くように努めている。書面でも伝えている。管理者が苦情相談窓口になっており、行政機関等の苦情受付先も文書で明示している。意見等は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合には、2週間位、先輩職員が基本的な対応やケア方法等指導しながら共に支援にあたり、利用者へのダメージを防ぎ、馴染みの関係が築かれるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を奨励しており、全職員が救命救急の講習を受けている。実践者研修、管理者研修、介護支援専門員専門研修、介護技術スキルアップ研修、AED研修等に交代で参加している。職員会議で研修の報告を行い資料は回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。レベルアップ交換研修等に参加し、同業者と交流する機会を持ちながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に訪問調査を実施して、本人・家族等から話を聴いている。見学を勧めており、お茶を飲みながらホームの様子を見てもらい本格的な利用につながるようになっている。入居後も、職員が散歩に同行したり、家族等に来訪してもらう等、一人ひとりに合わせた対応をしながら、徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩である利用者から、花の種まきや畑仕事、調理方法、昔の歌等教えてもらう事も多く、感謝の言葉をもらう事もある。一緒に過ごしながらか支えあえる関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活暦を把握し、日常の会話の中から本人の思いや意向を把握できるよう努めている。家族等からも情報を得るようにしており、職員間で共有し日々のケアに結び付けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が主にアセスメントを行い、本人や家族には日々のかかわりの中で思いや意向を聴き、介護計画に反映させるようにしている。ケース会議で職員の気づきや意見を出し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時、状態の変化に応じて見直しを行っている。定期的な見直しについては、4ヶ月に1度行っている。モニタリングも4ヶ月に1度行っており、職員間で話し合い、本人・家族等に確認しながら、その都度現状に即した新たな計画を作成している。	○	新たな要望や状態に変化が見られない場合でも、本人・家族の意向や状況を確認しながら、月に1度はモニタリングを行い、介護計画の遂行状況、効果等を評価し、少なくとも3ヶ月に1度は見直しを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望や都合に応じて、買い物支援、通院・受診付き添い等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望するかかりつけ医となっており、受診・通院は家族が対応している。週1回、看護師が健康チェックを行っている。4名の利用者がかかりつけ医の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応、終末期ケア対応指針」を作成し、入居時に本人・家族等に説明し方針の統一を図っている。本人・家族等ならびにかかりつけ医等と話し合い、その時々家族等の意向を確認しながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれないよう、言葉遣い等に配慮しながらやさしくさりげない介助をしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物、起床、食事、入浴、畑仕事、レクリエーション等一人ひとりの状態やその時の気持ちを大切にしながら、出来るだけ個別性のある支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食材の下ごしらえや下膳を職員と一緒にやっている。職員と一緒に食べたり、介助をしながら楽しく食事ができるよう支援している。選択メニューを実施しており、月曜日は主菜、木曜日はおやつを2種類から選べるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日(掃除日)を除き、希望があれば、毎日入浴できる体制になっており、午後に入浴している。入浴剤の使用等で入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、居室掃除、草むしり、畑仕事、毎日のラジオ体操、季節の花見、七夕まつり、お月見、初詣、市の文化祭見学、誕生会等役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、買い物、外出レクリエーション等、利用者が戸外に出て楽しめるよう支援している。家族と一緒に外出を楽しんでいる利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中(11時から13時を除き)玄関の鍵は施錠されている。	○	自分の行動をコントロールされる理由や規則を理解することが難しい利用者にとって、鍵をかけられ自由に外に出られないことによる心理的な抑圧感や不安は大きい。職員の連携で出て行く気配を見落とさない見守りの方法を徹底し、一人ひとりの気分や状態像を把握しながら、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回日中・夜間を想定した避難誘導訓練・消火訓練を実施している。緊急時対応マニュアルを作成してある。近隣の方達に防災協力員をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を作成しており、法人の栄養士が栄養バランスをチェックしている。食べる量や水分摂取量の少ない利用者の中には、個別記録に記載し職員が情報を共有しながら支援している。水分摂取量の少ない利用者にはお茶以外のスポーツドリンク等提供している。	○	食べる量や水分摂取量が少なくなった利用者だけ、個別に記録しているが、既存の食事チェック表に利用者全員の残食量、水分摂取量も記録して欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	正面玄関に2ヶ所ベンチを設置してある。ホールにはソファが置かれ、畳のスペースには掘りコタツや大きなテレビが設置してある。壁には七五三の着物を飾り、季節感を採り入れている。庭にはベンチが置かれ、花壇や畑がある。室内は明るく、清潔に保たれており、利用者がゆったりと過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室扉に折り紙の飾りをつけ、目印にしている。寝具、ベッド、箆笥、家族の写真、孫の手作りの枕や椅子等馴染みのあるものや好みものが持ち込まれ、本人が落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		